

【今週の注目疾患】

インフルエンザ

2017年1週の県全体の定点当たり報告数は、2016年52週の8.58から増加し12.34となり、国の定める注意報基準値(10)を超えた(図1)。

保健所別の定点当たり報告数は、16保健所中15保健所管内で増加し、松戸(19.72)、夷隅(19.40)、君津(16.92)、市原(15.36)、印旛(14.42)、習志野(13.75)、香取(13.33)、海匝(12.57)が多い(図2)。

2017年1週の年齢群別報告割合は、20～29歳14.6%、0～4歳14.1%、5～9歳12.2%が多く、2016/17シーズン全体では、10～14歳17.4%、5～9歳16.9%、0～4歳12.2%が多かった(図3)。

2017年1週の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果の報告は、2,550例中A型2,485例(97.5%)、B型55例(2.2%)、A and B型0例(0.0%)、A or B型10例(0.4%)であった。2016/17シーズン合計では、9,593例中A型9,388例(97.9%)、B型145例(1.5%)、A and B型5例(0.1%)、A or B型55例(0.6%)となり、A型優位となっている(図4)。

2016/17シーズンのインフルエンザによる入院患者は、70歳以上が42例で55.3%を占めている(図5)。

図1 千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数

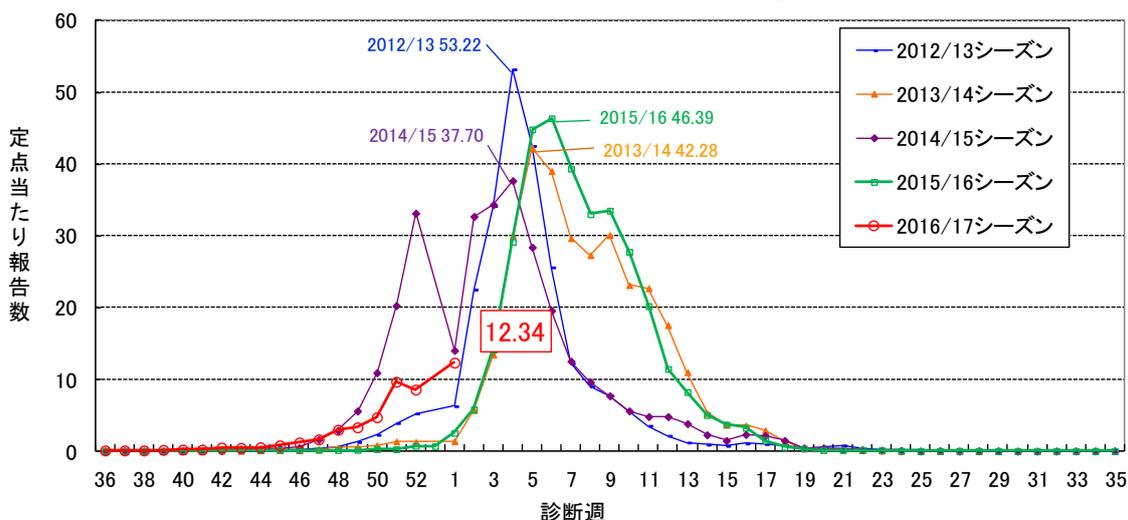


図2 2016年49週～2017年1週千葉県のインフルエンザ 保健所別定点当たり報告数

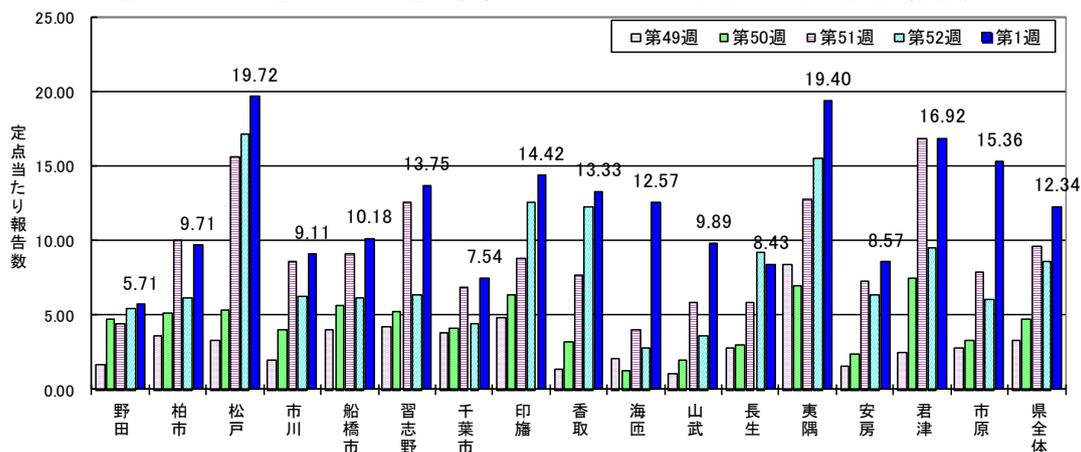


図3 2016/17シーズンインフルエンザ診断週・年齢群別報告割合推移

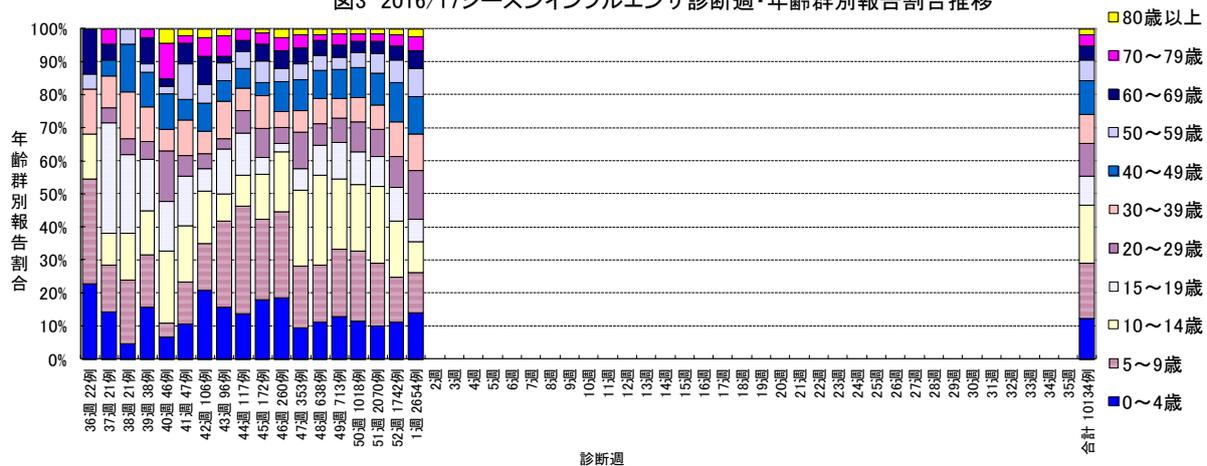


図4 2016/17シーズン千葉県におけるインフルエンザ型別迅速診断報告数

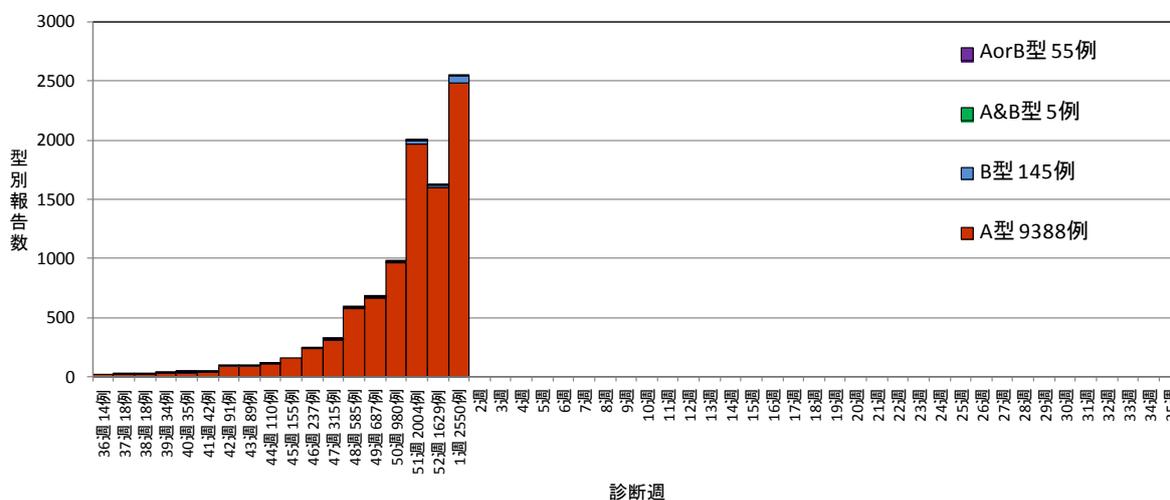
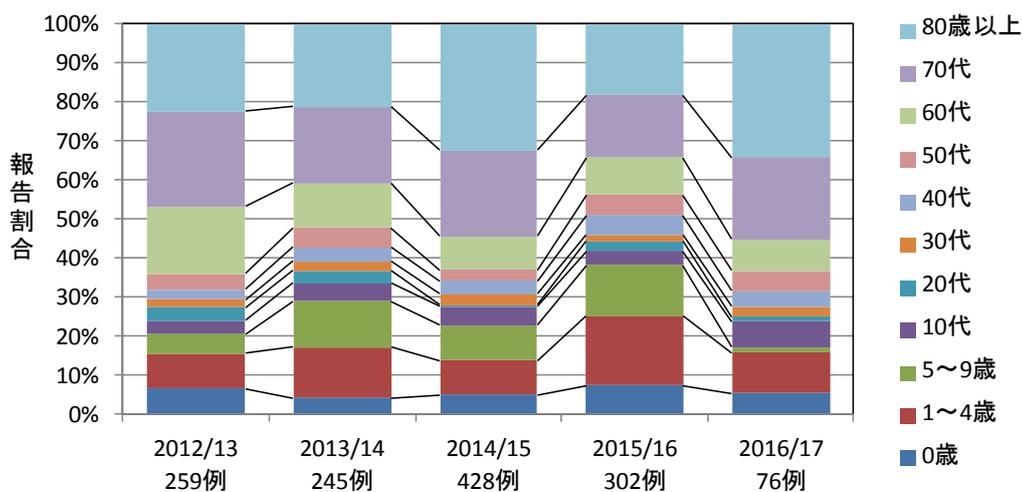


図5 2012年36週～2017年1週千葉県のシーズン別インフルエンザによる入院患者 年齢群別報告割合



平成28年度 今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)

URL: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>